

## 先輩から教わる療育の醍醐味

私は保育士として、広島市北部こども療育センターわかば園（肢体不自由児）・くすのき園（知的障害児）に勤務して16年を迎えました。勤務初日、療育の先輩である塩見陽子さんに出会いました。塩見さんにはさまざまな学習会、全障研全国大会等、とにかくたくさんさんの場に誘ってもらい、仲間と学ぶ楽しさと心強さを教えてもらいました。

一年目の6月、一緒に参加した学習会で、この年のわかば園のとりくみ絵本『そらまめくんのいちにち』（作…なかやみわ、小学館）に登場する、たんぼぼの綿毛、干し草のタオル、カタバミ、どんぐり等、本物との出会いをていねいにとりくむ話を聞きました。たんぼぼの綿毛に出会った女の子は、綿毛をガシッと驚づかみ、両手で握ったり持ちかえ、綿毛まみれになります。お母さんにフーッと綿毛を吹いてもらうと、顔に舞ってきて驚きます。「おや？ 何だろう？」と、さわり確かめながら、その素材を安心して自分の中に取り込んでいく姿が伝えられました。綿毛だらけになる女の子を囲み、みんなでその姿を見つめ、心を通わせて過ごす様子に幸せな気持ちになり、何気ない日常が宝物なんだと思えました。

す。私自身、子どもたちと同じ目線で絵本を楽しみ、まるで子ども時代を生き直しているように思えました。

登場するキャラクター、そらまめくん人形は手作り。歌も、替え歌や作曲が得意な職員が作ります。あそびに使う教材も子どもたちに合わせて手作り。たとえば、たんぼぼボール。大きなセラピーボールに綿毛のようなフワフワな布をつけます。普段はセラピーボールの感触が苦手な子どもも、フワフワな感触を受け入れ身体を添わせ、歌に合わせて揺れ「動くー止まる」「縦揺れー横揺れ」等の二つの世界を感じることができました。そらまめベッドは、緑の布にフワフワ感のある布を縫いつけ、そらまめのさやの中の感触を再現して作りました。子どもたちがさわる、見る、感じる感覚をしっかりと使いながら、「ヤリタイ」「モウイッカイ」という気持ちを引き出していくようにしました。

子どもたちに共通の楽しみをつくり、集団で遊びこんでいくことで、教材に命が吹き込まれ、生きた実践へと生まれ変わります。教材づくりは子どものことを思い描きながらも試行錯誤の連続です。楽しみもありますが、絵本の世界を取り込み、子どもを発達的にとらえながら、どうあそびを展開していくのか、あそびのアイデアが思い浮かばず行き詰

# 仲間がいっぱいひろしまの療育

この連載では、全障研広島県支部広島乳幼児サークルのメンバーが、乳幼児期の療育で大切にしてきたこと、保護者とともに運動してきたことなど、ひろしまの療育についてお伝えします。

## 第10回 実践・学習・運動の歴史をつなぐ 療育実践の楽しさ、 サークル事務局員としての役割

広島市北部こども療育センター 中村有里



また、綿毛に出会うために準備をする職員の様子も伝えられました。塩見さんが「同僚のO先生はお休みの日に綿毛集めをしました。つかみ心地が感じられる量を考え、子どもたちのことを想像しながら自然を見つけないで歩いたのでしょうか。職員も、絵本や子どもたち、家族との出会いを通して、自然の変化に心を開ける感性をプレゼントされている。人や自然の中で豊かに育ち合うことのできる療育の味わいに、誇りを持って生きていきたいと思う」と言われたことが印象に残っています。まだ、勤め始めたばかりで不安しかなく、子どもの関わり方、介助の仕方、自分の役割もわからない状態でしたが、子どもたち、保護者、職員のみなさんとともに過ごせることが喜びに思えた瞬間でした。

### 楽しみ、悩みながら実践を

絵本のとりくみは、大人も子どもも心ときめき、ふっと思い出した記憶の中に懐かしさ・楽しさが広がるよう、子どもたちの五感にはたらしめかけたいことがたくさんあります。未経験のまま過ごすのではなく、集団だからこそ感じるドキドキ・ワクワク感、心動かす楽しい経験につながっていきます。

『そらまめくんのいちにち』は、あそびを文化と自然でつなぐ魅力の詰まったお話で

まることもあります。しかし、失敗しても子どもたちが教えてくれることを通して「次はこうしてみよう」と、一緒にあそびを考え、仲間がいるから頑張れます。

職員集団は一人ひとりちがった価値観、感性、考え方、それぞれの持ち味があります。得意、不得意もあるなかで、療育の奥深さに自信が持てないことも多い現場でもあると思います。しかし、人生や療育経験に幅があるからこそ、学び合い、確かめ合い、楽しみ合い、悩みながらも成長していけたらと、常に思っています。

### 全障研との出会い、仲間づくり

療育に出会ったのと同時に全障研に出会いました。保護者と参加した全国大会では、分科会も一緒に参加し、実践と子どもの育ちを報告する機会を得ました。保護者からの発言の中で、「最初は泣いてばかりで、子どもの育ちを信じられない時もあった。今では子どもの成長を心の底から喜べるようになった。子育てが楽しいと思えるようになった。語れる仲間がいるっていいな」と話され、不安や苦悩を抱えながらも、子どもの成長を実感し、保護者自身の価値観が変化していく過程があったことを知りました。笑い合い、時に涙し、思いを共有する大切さを感じ、子どもた



左/たんぼぼをめくると、綿毛ボールが出てきます  
右/そらまめくん・はっばブランコ